

元高砂市議 緑の党グリーンズジャパン会員



[自宅] 兵庫県高砂市荒井町新浜 2-19-9

Tel 079-444-2343 Fax 444-2418

E-mail:ioku3@gmail.com

http://ioku3.sakura.ne.jp 新ブログも

ツイッター：@ioku3 Facebook・LINE: 井奥雅樹

「井奥まさき」
でweb 検索を

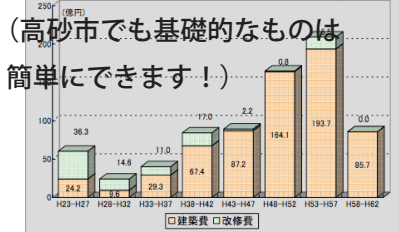
井奥まさきの市政ニュース

2014. 5 (月刊+ : 5月 通算 82号)

まちづくり 「朽ちるインフラ」問題 手をつけるのは早い方がいい

「あれか、これか」の時代 高砂市はまずは実態調査をすべき 元高砂市議 井奥まさき

秦野市の試算



※1 建設費は、木造30年、鉄骨造45年、鉄筋コンクリート造60年、改修は、30年と仮定
 ※2 すでに建設時期を迎える建築物は、すべてを1923-1927の範囲に算入
 ※3 建設費は、解体費込みで1㎡当たり35万円、改修は、1㎡当たり5万円と仮定

「あれか、これか」の時代へ

経済が右肩上がりの時代、全国の「裕福な」自治体の先陣をきって高砂市はインフラを整備してきました。学校の鉄筋コンクリート化は県下でも最速でしたし、公民館や校区ごとの施設の充実も素晴らしいものでした。

施設建設の膨大な借金と引き換

えのこの過大な充実も、経済や人口が落ち着き「定常化」状態になった途端にインフラの老朽化、施設の更新問題に直面しました。試算すら発表しない高砂市においては全貌は不明ですが、「すべての施設を更新する」財源がない状態は明らかです。右肩上がりでない今後には「あれか、これか」の政策選択の必要があるのです。

無作為抽出の市民で「施設仕分け」

私が先進事例として素晴らしいと思ったのは香川県高松市で実施された「施設仕分け」です。事業仕分けの専門家が施設の有効性について利用者の代表者や行政と公

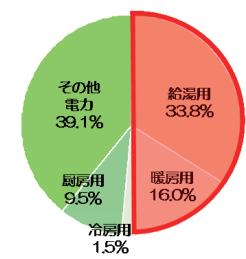
開で議論を行います。それを無作為抽出の市民が参加して判定をするというものです。利用者視点に偏りがちな施設議論を公平に判断できる手法であり、高砂市もぜひ導入すべきです。登市長が不熱心ならば、**市議会**で実施すべきです。

実態調査と公表で「仕分け」準備

しかし、高砂市の現状は「現状把握」すらできていない状態です。図に示した秦野市のシミュレーションは基礎データさえあれば誰でも作成できます。高砂市は施設台帳を整備して、実態調査を行って現状を市民に伝え、「施設仕分け」議論に備えるべきです。

環境経済

脱原発は地域の実践から～太陽熱利用も重要 「熱は熱で」



「脱原発って言うても高砂市には関係ない」という方がいます。私は「地域ですら原発ゼロを実践できずに国全体の脱原発はありえな

い」「脱原発こそ最大のビジネスチャンス」と説明しています。今回紹介するのは東京都などで実践している「太陽熱利用」です。実は私たちは普段の生活で左図にあるように電気の大部分を「熱」に変えて利用しています。原発も火力発電も熱を電気に変えて発電

しているわけですから、電気を再び熱に変えるのは無駄が大きいわけです。太陽熱利用は給湯や暖房に「熱をそのまま利用する」という考えです。高砂市は地場企業とも連携して新分野である太陽熱利用での普及先進市をめざし、全国ビジネスをリードすべきです。

緑の党

自由な個人、多様な文化が基本～ダンス・マンガ規制問題を巡って～

緑の党+井奥まさき

緑の党の理念の基本は「自由な個人」です。多様な考えを持って集まった個人が相互に助け合うことが基本。それで不足する部分を「市」をはじめとする政府がカバーをする…「補完性の原則」という考えを政策の基本にすえています。これと全く逆が「『標準以外の』市民は取り締まる対象」という国

家主義的な考えです。近年様々な場面で増えています。例えば、若者が楽しむ「クラブ」に強制捜査を行う事例の増加です。緑の党は取り締まりの根拠となる「風営法」自体に時代遅れの部分があることを指摘し、声明を発表しました。4月25日の大阪のクラブ無罪判決を受けてのことです。他にも前

身団体時代には私が起草して「東京都マンガ規制条例」への反対声明を出しました。

音楽やダンス、ネットカフェ、マンガなど若者文化に冷たく厳しく取り締まる…そんな警察行政のあり方はどこか歪んでいます。緑の党は党内でも多様な議論を行いつつ、多様な文化を大切にします。

●毎回、緑の党の政策や緑の党について紹介します。

基礎データが準備されていれば、私一人でも岡山県の施設更新の状況報告を作成できました。まずは概算でも議論を出発させるべきです。

塩田跡地を利用して住宅地化した高砂市南部地域は太陽エネルギーの潜在力が高い地域 エネルギー産業で高砂市を活性化させましょう

子育て日記 忘れ物は遺伝？大人になったら直るかな



あれ？〇〇がない

うちの子どもたちは忘れ物名人です。王者クラスの下の子は筆箱、上履き、傘…と次から次へと忘れ物をやらかします。夜に時間割あわせする時にも「〇〇がない」の連続です。妻が「どこで忘れたの？」と聞いても「うーん」と悩

み込んで要領が得ません。「学童には」「おじいちゃんには」と聞けば聞くほどわからなくなるようです。そして、ひょっこり別のカバンから出てきたりします。

先日荒井駅から電車に乗って高砂駅に着いた時には切符を無くしていました。やれやれです。

私自身も「忘れ物大王」

最近はっきりしてきた娘も二年生の時は「忘れ物がなければね」と先生から注意されたこともあり、最近でもカギを忘れてきた

りとエピソードは増えるばかりです。大人になったら注意深くなつて忘れ物をしなくなるのでしょうか。今の姿を見ていると絶望的です。さらに、子どもに注意すべき私自身が「忘れ物大王」クラスなのが困ったものです。小さい時からさまざまなものを忘れてきました。出かける前にカギや携帯電話を探すのもしょっちゅうです。最近も愛用の ipad-mini を新幹線で忘れてしまいました。忘れ物、どうかして直りませんか。

市長と語る会 広報で言い訳？①市長と語る会中止の理由にならない。即時に復活を

5月号広報たかさごで私の4月号ニュースで取り上げた二つの話題「市長と語る会中止」「30億円の債権放棄」についての記事が言い訳のように掲載されていました。率直に言って「行政用語ばかり」というのが二つの記事への感想です。例えば、「市長と語る会」中止に伴って実施されている

「ふれあい座談会」について「なぜ自治体単位しか申し込めないのか」「座談会ならではの成果は何か」といった本当に知りたい情報はいっさい掲載せず、美辞麗句で実態の無さをゴマカす登市長流です。対照的なのが尼崎市で稲村市長が実施している手法です。勉強会で聞いたところ、「特定の市民

の参加に偏る」という高砂市と同じ問題意識の後、尼崎市が取ったのは「テーマ別」「少人数」と選択肢を「増やす」ことでした。ネット中継した「ガレキ焼却」問題では市長自らが困難な問題について答弁していました。登市長は猛省し、「誰でも参加できる」市長と語る会を即時復活すべきです。

土地開発公社 広報で言い訳？②30億円の借金放棄の言い訳がこの程度か

行政が物事をゴマカス手段は共通しています。「どうしてもいい情報で字数（発言時間）を稼ぎ、物事の本質に触れない」ということです。土地開発公社の問題についても「なぜ借金がふくれあがったのか」「市民にどれだけのソンをさせたのか」「責任者は誰か」「今後反省すべき点はないのか」という本質議論を無視して「早期に解

散した方が（よい）」という結論だけを書いています。結論は私も同意しますが、そこに至る過程の「歴代市長の無策により市民に大きな借財を残した」という点を見無視しています。私は2007年より土地開発公社の危険性について再三取り上げてきましたが、「将来負担にはならない」という強弁を歴代市長は続けてきました。

最大派に集まっている「ベテラン」議員もその答弁を黙認してきたはず。その責任を感じるのであれば、「今後の土地売却・返済見直し」について市民にしっかりと説明をすべきです。前にも書きましたが、議会改革を言うのであれば、議会こそ「居眠り登市長」を無視してでも市民説明会を独自開催すべきです。

●このニュース作成者 井奥まさきはこんな人

□井奥まさきプロフィール 1965年生まれ。48才。伊保小学校から淳心学院中・高校をへて岡山大学法学部へ。国際交流団体ピースボートや国会議員秘書などをへて、高砂市議3期11年間。国政選挙関係の文書違反事件で自主的に辞職。その後、4年間市民活動として「つなげよう高砂」発行などを行う。全国的には「緑の党グリーンズジャパン」の設立に関わる。他に「自治体議員政策情報センター」の事務局、東京都・兵庫県議会の政務調査スタッフ。家族は妻と子ども二人。荒井町新浜在住。母は幼稚園教諭、父（故人）は山陽電車勤務。

■広告 家庭教師 079-442-3438 河田寛人 早稲田大学政経学部卒業 中学受験から東大受験まで 1h = 3千円 中学受験の国語も教えます 合格実績：淳心中、滝川中、啓明学院高、加古川東高、筑波大学など 朝6時～夜10時、土日可

■土地開発公社問題について、私は例えば二〇〇七年に「工業公園からの市税相当分を毎年五〇〇〇万円ずつでも積み立ててはどうか」などの具体的提言もしました。

■登市長が実績を誇るふれあい座談会は「自治体単位」しか申し込みが無理。せめて「一定人数以上を確保した団体（自治会を含む）」に変えたら？民主主義がわからない市長です。